

裏路地探険

天空の城「竹田城跡」を仰ぎ見る城下町
土塀、格子、虫籠窓、うだつの上がった町家
茶色味がかった石積みのみち並みを歩く

「天空の城」として、全国区となった竹田城跡。その魅力はなんと、西100メートルに完存する総石垣造りの遺構。関ヶ原の戦いの後、廃城になったことにより、戦国期の山城の姿を今に残すことになった。麓にはかつての城下町が広がる。

江戸期に2回、明治期に1回、大火に見舞われた竹田の町には昔の記録がほとんど残されていないが、大軍の侵入を防ぐクランクなど往時の面影を見ることが出来る。

「廃城後は姫路・生野と和田山から京都を結ぶ但馬街道の宿場町として発展してきました。土塀や格子戸、うだつの上があった家など、古いまち並みは今も健在です」と話すのは、和田山観光ボランティアガイドの上山哲生会長。

上山さんの案内で、竹田地区コ

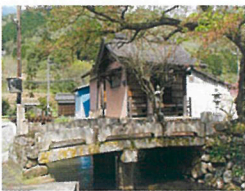


駅から竹田地区コミュニティーセンターに延びる路地。白壁の蔵と石積みのコントラストが美しい。旧街道沿いの表通りには、町家を活用したカフェや食事処、土産店などが点在している。

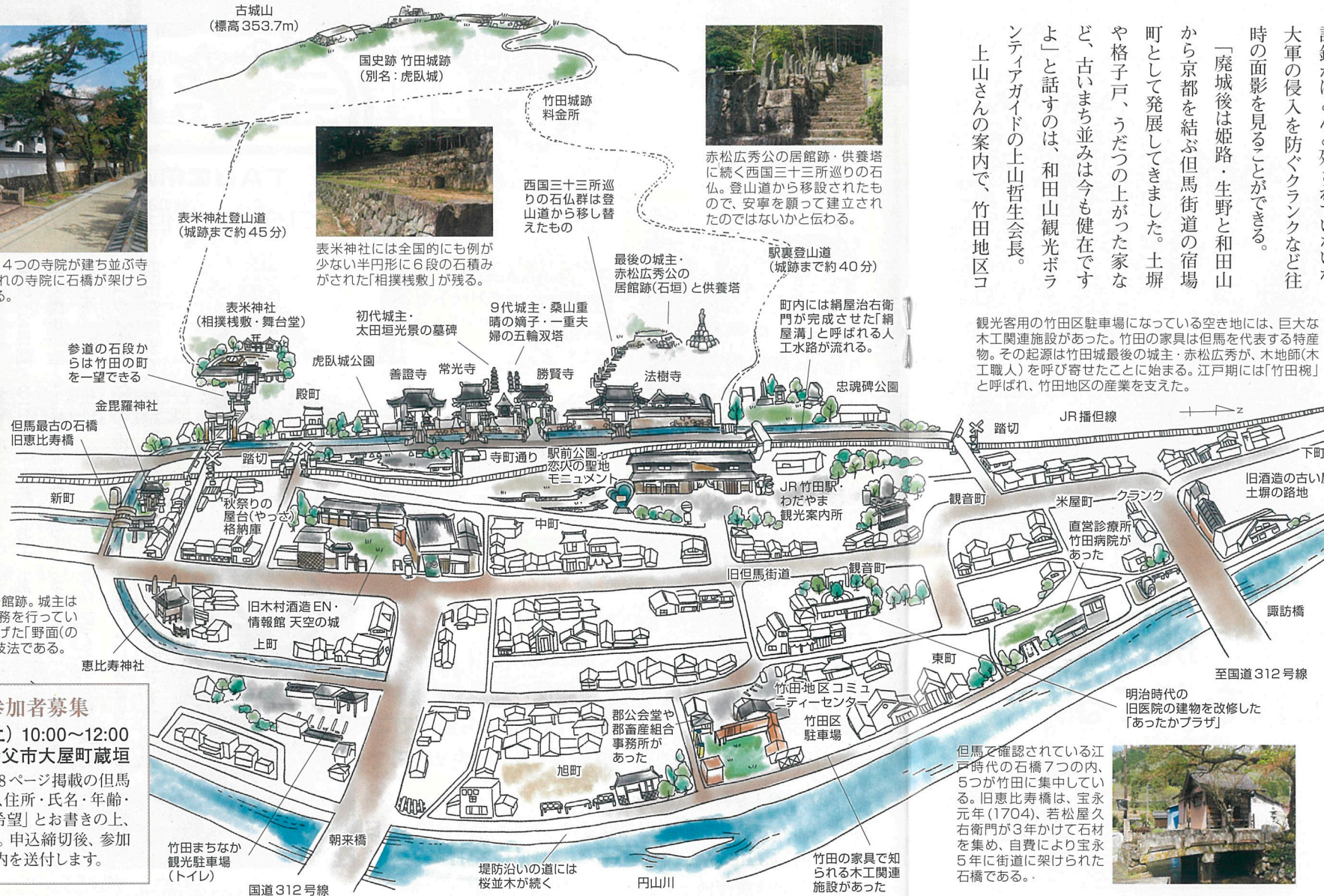


旧木村酒造場の建物をリノベートした「EN」は、ホテル、レストラン、カフェとして平成25年秋にオープンした。「情報館 天空の城」では竹田城跡の鳥瞰模型や映像コーナーがあり、竹田の歴史を紹介している。また、ガイドの申込みも行っている。(1週間前までに予約/1回2,000~3,000円) 情報館 天空の城 TEL.079-674-2120

観光客用の竹田区駐車場になっている空き地には、巨大な木工関連施設があった。竹田の家具は但馬を代表する特産物。その起源は竹田城最後の城主・赤松広秀が、木地師(木工職人)を呼び寄せたことに始まる。江戸期には「竹田槐」と呼ばれ、竹田地区の産業を支えた。



江戸時代確認されている江戸時代の石橋7つの中、5つが竹田に集中している。旧恵比寿橋は、宝永元年(1704)、若松屋久右衛門が3年かけて石材を集め、自費により宝永5年に街道に架けられた石橋である。



竹田城下町のメインスポットである、4つの寺院が建ち並ぶ寺町通り。鯉が泳ぐ水路には、それぞれの寺院に石橋が架けられ、竹田独特の風情を醸し出している。



法樹寺の裏手に残る赤松広秀公の居館跡。城主は平時、山城ではなく、麓の居館で政務を行っていた。城跡と同じく、自然石を積み上げた「野面(のづら)積み」で、これは安土城と同じ技法である。

「T2 裏路地探険」参加者募集

平成29年9月2日(土) 10:00~12:00
「養蚕の地を訪ねて」養父市大屋町蔵垣
*実施日の10日前までに、18ページ掲載の但馬の情報誌「T2」編集部まで、住所・氏名・年齢・電話番号・「裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキで申し込みください。申込締切後、参加ご希望の方へ郵送にて案内を送付します。

「古い石橋が多いのも竹田ならでは。但馬にある江戸期の石橋7つの中、5つが竹田に集中しているんです」と、上山さん。

宝永5年(1708)に造られた「恵比寿橋」は但馬最古の石橋。以前は街道筋に架けられていたが、昭和5年に現在地に移設された。

この橋の下を流れる水路もぜひ見てほしい場所のひとつ。水はげがよくなかった竹田町内には、文政7年(1824)に水路が造られたが、ここから水が分かれ、約580メートル先の下町まで流れている。堰を設けることなく、勾配だけで左右に水が分かれる様子は、先人の技術の高さに感心する。

城のふもと側へと流れる水路は、松並木が美しい寺町通りへと続く。かつての武家屋敷跡であり、4つの寺院が移設され、竹田城下町を象徴する景観だ。歴代城主の墓や供養塔、居館跡があり、鯉が泳ぐ水路と相まって趣深い。

近年では観光客の増加に伴い、古い町家を活用した宿泊・食事・休憩施設がオープンし、新たな町の魅力となっている。のんびりとした時間が流れる竹田城下町。竹田ならではの風情や歴史の足跡を感じることができた。